

わたしの散歩道 後編



子どもたちが作った海!



すいすい
すいすい



百の緑に囲まれた散歩道

町中から戻り、深く呼吸する。この香り、この音…鳥のさえずり、川のせせらぎ、風…、色、色、の洪水。

蜜柑の花の咲くころ…5月20日前後の数週間…、窓を開ける時、散歩の時にたどる花の香り。以前は電車が湯河原に近づくと、その香りが車中に広がったのも懐かしい。

私の一番好きな季節は11月。オレンジ色、黄金色の実が緑の葉に美しく映える「湯河原・真鶴アート散歩」の季節。いろいろなお宅を訪ね、作品に感動し、たくさんの出会いも楽しい。この町に住んで幸せ。(K・N)



てくてく
てくてく



今年の夏は暑かった〜



たぬき

真鶴にはお林と言う巨木の生い茂る森があり、私はときどき野鳥観察などをしながら、森林浴を楽しんでいます。

ある冬の日、いつもの散歩道を野鳥の写真を撮りながら歩いていると、暖かな陽気に誘われたのか、森の中から茂みをかき分けて、たぬきがやってくるのが見えました。

私は立ち止まり、手にしていた望遠レンズのカメラを構えて、息を殺しました。たぬきは私に気づいていないらしく、とつとつと森の淵の倒木のところまで姿を現しました。その距離10メートルぐらいでしょうか。シャッターを連写しました。さすがにたぬきも私に気が付いたらしく、目を見開いてあわてて森の奥に逃げていきました。その愛らしい姿に笑いがこみ上げてきました。(T・M)



カラフルトタンと…



トタン石垣…



ここ、という どころか

のぼり くだり
通って来た道は
しるべなく
石垣のかげ 深い

とどめられた時間から咲く草の花も
揺れるのは
いま このときの風にだけ

トタン屋根で居眠りする猫と
同じ風に染まる

わたしたちは

どんな色をして
どんな音で ないているのか

ここで

(H・M)



すたすた
すたすた



30年の謎

道端におちていた。石斧を模した装身具のようなものかと思った。二度目に見つけたときは誰かの作品ではないと分かったが、何であるかは分からなかった。身近な人に聞いても、知らなかった。見かけると拾っていたら30年ほど経っていた。

13個たまっていたので「アート散歩」のとき展示してみた。分かる人がいるかもしれない。

幸運なことに、いた。

自動車の車輪の回転数を調節する錘だそう。車輪の蓋の内側に挟みこまれていて、走るうちに緩んで、こすられ潰れて落ちたのだ。このような錘と車輪は20年くらい前には生産が終わり、以後、外れることのない仕組みを持つ形になったそう。

私としては長きにわたる謎が、展示をとおして解けたので感慨深い。(M・H)